

研究主題

自ら学びの世界を広げ よりよい自分を創る子ども

子どもが育つ、
生活科・総合的な学習の時間を
提案・実践・検証し、
生活科・総合的な学習の時間で
育つ子どもの学びを明らかにする。

これまで、全道各地区の力を集結し、よりよい生活科・総合的な学習の時間の実践を全道、全国へ発信し、生活科や総合的な学習の時間で育つ子どもの姿を明確にしてきている。

今年度も、「生活科とは何か」「総合的な学習の時間で子どもにどんな力が育つのか」ということを見つめ直しながら、より説得力のある理論と実践の構築に努めていきたい。学習指導要領の理念は、我々生活科や総合的な学習の時間の実践者の目指す学びとも深く関わっている。これから生きる子どもたちにとって必要不可欠な学びであることは揺るぎないところではある。「子どもにどのような資質・能力を育てるのか」を設定することの大切さや、「他の教科・領域の学びをどのように関連させるとよいのか」など、これまで培ってきた理論を基にしながら、子どもの具体的な学びの姿で全道・全国に実践提案し、生活科・総合的な学習の時間の学びの有用性を広げていきたい。

主な活動

私たち、北海道生活科・総合的な学習教育連盟は、生活科と総合的な学習の時間の実践研究に取り組んでいる、北海道の地区ごとの研究団体のネットワークである。様々な研究活動や情報交流を通して、双方向・協同・創造的な実践交流を行っている。

本連盟が更なる成長を遂げるためにも、各地区の連携を密にしていく必要がある。各地区における実践には、生活科や総合的な学習の時間の課題に真正面から向き合ったものや子どもの思考に寄り添ったものなど、優れた実践が数多くある。今年度も、全道の力を集結しながら生活科・総合的な学習の時間の理念を大事にしながら、提案・実践・検証を充実させていきたい。

■全道研究大会の開催

・公開授業 ・課題別分科会 ・講演会等

■夏季研修会の開催

・研修会 ・講演会 等

■情報交流紙

『DO! ネット』の発行（年3回）

■実践資料集

『DOKOYA』の発行（年1回）

■ホームページ

『北の大地・発』にて、各地区の取組の紹介

■はじめに

学ぶとは…

自分にとっての価値を見出すこと

「学ぶ」とは、子どもの主体的な学びの姿を捉えて表す言葉である。子どもは、学ぶことが自分にとって価値のあることだと分かれば、自分ごととして本気になって学ぶことができる。そして、学ぶことを楽しいと感じ、学んだことを今後も使える力として生かしていくようになる。

国内外の学力調査などでは、子どもの学習への意欲の低さが示されている。しかし、子ども主体の学び、課題中心の学び、体験や活動を重視した学びを求め、展開している生活科や総合的な学習の時間においては、学ぶ意欲の低下は子どもの姿からは感じられない。このことは、子どもが学ぶことに価値を見出ししているからに他ならない。

学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」に通じる学びは、これまでも大事にしてきたところだが、これからも、子ども自身が自分にとっての様々な価値を見出ししていくような主体的な学びを目指していきたい。

子ども自身が価値を感じ

自分ごととして学ぶ姿を目指す

学びの世界を拓げる子どもの姿

「学ぶ」ことから得られるものは、知識や技能のほかにも様々な考えられる。

身近な生活・実社会やそれらと自分との関わりを通して学ぶ生活科や総合的な学習の時間においては「学ぶ」ということを広く捉え、その「学びの世界」の中で子どもの将来に渡って生かされる資質・能力を身に付けていくことを大事にしたい。

主体的な学びを通して「学ぶことの意味を捉える」といった学びに向かう姿勢を育むことと、先に述べた「自分との関わりで学ぶこと」などを関連させていくことで、自立や自己の生き方を考える大人へと成長するものと考えている。

学ぶことの意味を捉える

学ぶことへの姿勢

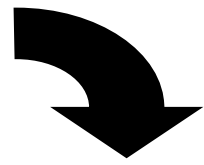
学び方を身に付ける



対象と自分との関わりで学ぶ
学び方やものの考え方を身に付ける
自己の生き方を考える

生活科や総合的な学習の時間の学びでは、

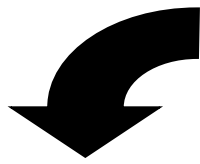
子どもが、自分の成長、よさや可能性
について自ら気付くことができると考えている。



学びの世界を広げるためには、

教師は、「学びの世界」が広がっている
事実気付かせていく

ことが大切になる。



学びの世界が広がると、

子どもが、学びの世界の広がり
に期待と可能性を感じるようになる。

学ぶことに価値を見出した子どもは、学習活動
の条件の中で学ぶことはもちろん、学ぶ機会を自分
で探したり創ったりするようになる。

自ら「学びの世界」を広げながら、「自分はこうな
った」「自分にできた」という自分の学びへの実感や、
「こんな自分になりたい」「このように生きていき

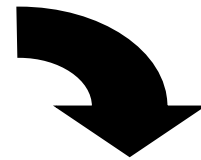
たい」という願いや期待をもち、さらに学び続けていくようになるのである。こうした「よりよい自分
創り」は、生活科と総合的な学習の時間における学びの本質でもあり、こうした子ども像を、

だから、

学び続けること
は、

よりよい自分創りの営み

であると我々は考えているのである。



自ら学びの世界を広げ よりよい自分を創る子ども

とし、研究主題に迫る視点や手立てを「学習像」と「教師のかかわり」から考えていく。

■ 学び続ける子どもへ

先の学習指導要領に示されていた「生きる力」の基本的な考え方の一つに、「自ら学び自ら考える
力の育成」が挙げられていた。いわゆる知識基盤社会においては、「課題を見出し、解決する思考力・
判断力・表現力等」が必要であり、その更新のために学び続けることが求められていくということ
である。このことは今後も変わらない。

また、学習指導要領にある「何のために学ぶのか」という学びの意義を子どもたちが考えることも
必要であろう。我々がよりよく生きていくためには「共存・協力」が必要であり、そのためには、自
己との対話を重ねながら「いかに生きるか」「いかに学ぶか」ということを考えつつ、他者や社会、自
然や環境と「共に生きる」積極的な姿勢も求められている。そうした子どもを育てることが、生活科
や総合的な学習の時間が担う役割であると受け止め、生活科や総合的な学習の時間で育つ子どもの姿
を考えていく。

■ 研究主題に迫る「学習像」

研究主題で示した子ども像は、子ども自身が学
習活動に価値を感じながら、自分ごととして本気

子どもが育つ

理論や実践を集約する

で学び続けようとしている姿である。

昨年度の札幌大会では、「手応えある学び」をキーワードに授業実践を発表した。また2日間開催により、シンポジウムを開くことで、生活科、総合の理論を深堀することのできた大会であった。対面による開催を中心としオンラインも駆使したハイブリットな大会ともなった。コロナ禍であっても、他地区が重ねてきた実践成果を生かし、生き生きと学ぶ子どもの姿を見ることができた。

昨年度は、世の中で新型コロナウイルス感染症5類への移行という流れがあり、人と距離を取る必要がなくなったことで、従来の授業参観が可能となり、子どもと教師の関わりを見ながら間近で見ながら、授業検証をすることができた。この大会では、会場校が積み重ねてきた生活・総合の学びの姿に、生活・総合連盟の全道の仲間の力が加わって、大きな成果を出すことができた。その流れを、今度は旭川大会へと繋げていく。

札幌大会では、単元構成に関しては、「手ごたえのある学び」を切り口に資質能力をどこで育てるのか、どのように評価をするのかを指導案上に位置付け、示すことができた。指導と評価の一体化を目指す展開が、子どもにとっていかに有益な学びにつながるのかを発信することができた。

新たに設けた重点は今年度で2年目となる。昨年度は、道連盟の研究主題の実現に向けた授業改善を行っていくことができた。今年度も、生活、総合の学びを一層充実したものとするため、1つは、生活、総合において授業を通した深い学びの検証。もう1つは、見取りや評価の在り方について考えていく。昨年度の成果と課題を生かしつつ、各地区の実践をさらに積んでいきたい。

本大会では、課題別分科会の形式を取り、対面での開催であるからこそ、会場の生の声を基本とし、双方向の意見交流が行われる方法で開催する。

大枠としては、「資質・能力の具体化」と「教師の支援」をテーマに、旭川地区の研究主題や副主題を踏まえ、道の重点である①生活科、総合としての深い学びの検証を資質・能力の具体と、②生活・総合見取りや評価の在り方を教師の支援について討論を深めていく。各地区から生活科2本、総合的な学習の時間2本の実践をベースに、授業実践を通して得られた成果と課題を主管地区より選出された司会者が運営を進めていく。対面スタイルとなる本年度は、ぜひ旭川に参集し顔を合わせて討議をしていきたいと考える。また、実践から見える北海道の生活・総合の題材の特徴についても整理していきたいと考えている。最後に、調査官には、問題提起にこたえていただくとともに、御自身の専門性から、幼児教育から高等学校教育までを視野に入れた「指導観や子供観の見通し」について語ってほしいと考えている。これまで本連盟が大事にしてきた「学ぶ子どもの姿」を、これからも見つめ続け、子どもの資質・能力を育むための手立ての具体についても発信し、生活・総合の研究を一層充実させていくようにしていきたい。

■これからの生活科・総合的な学習の時間

■これからの生活科

体験を振り返る活動や伝え合う活動を通して、気づきの質を高める生活科

+ 気づきの質を高めることの更なる重視

(言葉と体験の充実、気付いたことを基に考える 等)

■これからの総合的な学習の時間

問題の解決や探究活動の過程を通して、物事の本質を探ってみ極めようとする総合

+ 探究の過程を一層重視する

(探究課題とその解決を通して学ぶ資質・能力の明確化 等)

本連盟では、生活科や総合的な学習の時間で目指す授業の姿を前ページ下段のように設定してきた。大事にしていきたい内容は大きく変わらないが、「重視」という言葉を強調していきたい。それは、生活科や総合的な学習の時間の学びが、「個別最適な学び」や「協働的な学び」からも読み取れるように、現学習指導要領の大きな部分を占めていることにある。これからも一層、我々が目指す学びが重要となってくると考えた時、理論や実践の精度を高め、より一層生活科や総合的な学習の時間の重要性を発信していく必要があると考える。

生活科や総合的な学習の時間に初めて接する初任の教師や、実践をする機会があまりなかった教師などへ、子どもが自分の成長、よさや可能性について自ら気付くことを広く伝えるとともに、授業の在り方を子どもの姿で示していくために、「気付きの質を高めるプロセスで重要なことは何か」「探究の過程を通して深い学びに向かうためにはどんな手立てが必要か」など、より具体的に提案できるようにしていきたい。

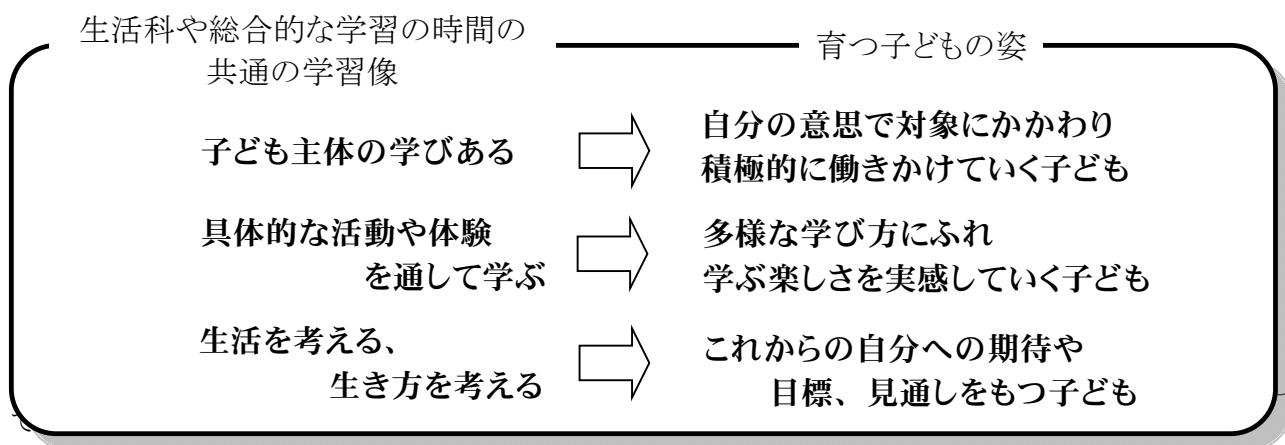
■研究主題に迫る「教師のかかわり」

授業場面における教師のかかわりについては、一人一人の「学びの世界」を評価情報として探り、指導に生かすことを引き続き大事にしていく。

子どもたちが自分の思いや願いをもって対象にかかわったり、課題をもって探究したりしていく中で、自分なりの見方や考え方をもちたり、本質に迫ることで新たな価値を見出す姿を教師がしっかりと受け止めたりする必要がある。子どもの内側にある思いや願いの引き出し方や子どもの思考の捉え方など、授業における教師のかかわりを具体的な手立てとして明らかにし、公開授業を通して広く発信していきたい。

更には「生活科や総合的な学習の時間では、こういう教師のかかわりをすればよいのだ」ということを発信し、多くの人に共感的に受けもらえる工夫や努力をしていきたいと考えている。

生活科や総合的な学習の時間における学習像や子どもの姿には、共通性の高いものがある。以下に簡単にまとめているが、こうした「学習の理念」を忘れないことも大事になってくる。



■子どもが育つ、生活科

子どもの思い・願いと気付きの質の高まりのある生活科

■子どもが育つ、総合的な学習の時間

協働的な学びの中で、物事の本質を探り見極める総合的な学習の時間

+

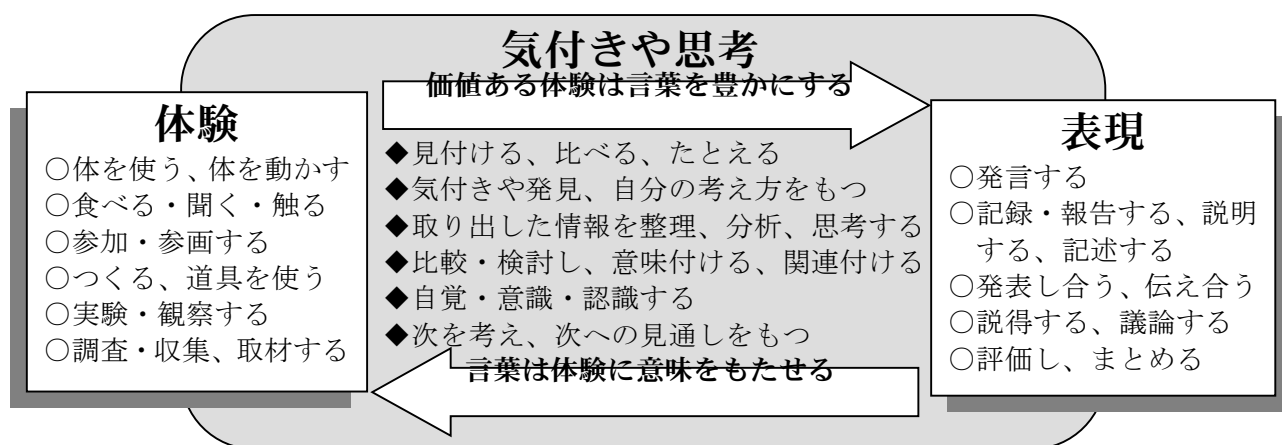
■生活科・総合的な学習の時間で育つ、子どもの学びを

資質・能力の面から捉えていく

「目指す子どもの姿」を、資質・能力を面から捉えることはこれまでと同様である。体験や活動を通して、教師は子どものどのような姿に「生活や総合の学びの価値」を見出し、どのような姿から「資質・能力の高まり」を感じ、どのような「資質や能力」を育んでいこうとしているのかなど、「主体的・対話的で深い学び」の在り方を検証しつつ、教師の「見取り」や「評価」について明らかにしていく。

■価値ある体験と実感のある 気づきや思考のある学習

生活科や総合的な学習の時間では、遊びやものづくり、見学や調査、実験や観察などの活動や体験を振り返り、他者と伝え合う手段として表現（言語活動）を取り入れることが多くある。子どもにとって価値のある体験からは、「言いたい」「聞きたい」「書きたい」という意欲や必然性が生まれ、より具体的で実感のある表現につながる。そのためにも、体験したことを見つめ直し、多様に表現をする場を構成していくことが必要である。その際、子どもの表現（言葉や文章、作品など）によって体験が意味付けられる働きにも着目し、学習の意図に即した言語活動を取り入れていきたい。



■研究の重点の設定

まずは、「授業づくり」の観点から、資質・能力を高めるための授業の在り方を考える必要がある。生活科であれば「言葉と体験」「気づきの質の高まり」につながることであり、総合的な学習の時間であれば「探究課題」「探究課題の解決を通して学ぶ資質・能力」に関することであろう。

そこで、二つの重点を設定し、研究を進めていきたい。

重点① 子どもの資質・能力を高める**深い学び**の在り方

- 【資質・能力の面からの検証】
- ・生活科・総合的な学習の時間を軸に！
 - ・他の教科・領域等と関連させる効果、可能性！
 - ・主体的・対話的な学びをどのように位置付けるか！

- ・学習活動全体を俯瞰
- ・単元配列表を基に生活科、総合としての深い学びの検証

重点② 子どもの資質・能力を高める**見取りや評価**の在り方

- 【「教師のかかわり」「指導方法」の観点からの検証】
- ・育てたい力を明確に！
 - ・学習の過程を一層重視！
 - ・学び方や学びの姿を具体的に想定！

- ・子どもの育ちの到達点と通過点を想定した評価計画の作成

今後、主管地区の考えも尊重しながら、合わせて研究の重点の検証を精力的に進めていく。